

大館市地球温暖化対策実行計画 (区域施策編)

【概要版】

令和7年3月

大館市



気候変動問題とは

産業革命以降、化石燃料の大量消費や森林伐採等により大気中の温室効果ガスの濃度が急速に増加し、地球の平均気温が上昇し続けています。このような地球温暖化により、気温の上昇や豪雨の増加などが各地で確認されており、私たちの生活や自然環境、社会、経済にも大きな影響を与えています。今後、地球温暖化の進行によってこのような自然災害のリスクはさらに高まることが予想されています。



この計画の目的

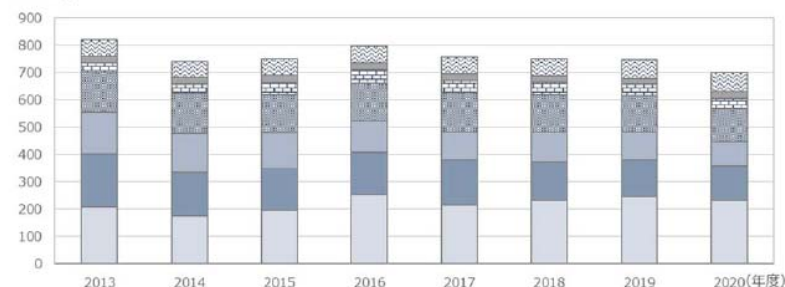
大館市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)は、大館市において地球温暖化対策を推進するため、地域の特色や社会経済環境の変化等を踏まえ、温室効果ガス排出量の削減等を行うための施策に関する事項を定めるものです。
脱炭素社会の実現に向け、市民・事業者・行政が一体となって二酸化炭素の排出抑制や再生可能エネルギーの利用促進、カーボンニュートラルに寄与する森林整備など、豊かな自然とともに快適に暮らせる地域を目指します。



大館市の現状

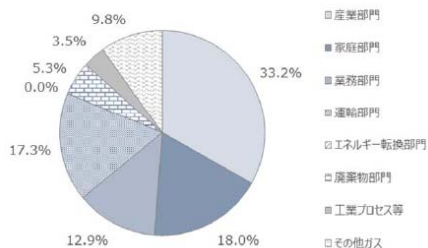
2020年度における温室効果ガス排出量は約70万トン(CO₂換算)であり、基準年度(2013年度)と比べて15%減少しています。家庭部門や業務部門での減少が大きく、人口減少による影響が大きいと考えられます。

(千t-CO₂)



産業部門 家庭部門 業務部門 運輸部門 エネルギー転換部門 廃棄物部門 工業プロセス等 その他ガス

2020



森林の吸収量(現状)

(CO₂換算量)

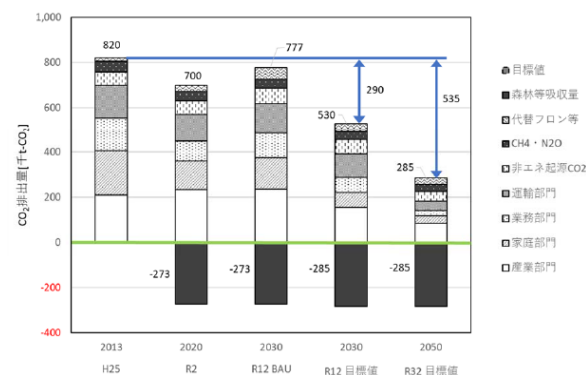
民有林の吸収量 13万2079トン
国有林の吸収量 17万4752トン
主伐による吸収減△3万3038トン
森林吸収量の合計 27万3797トン

※森林面積、樹種の吸収量原単位から試算



温室効果ガスの削減目標

2030年度までに、温室効果ガス排出量を29万トン(2013年度比70.1%)削減します
2050年度までに、温室効果ガス排出実質ゼロ(カーボンニュートラル)を実現します



●目標値
■森林等吸収量
□代替フロン等
■CH₄・N₂O
□非エネルギーCO₂
□運輸部門
□業務部門
□家庭部門
□産業部門

2030年度までの 再エネ導入目標

太陽光発電 40.8 MW
水力発電 10.2 MW
バイオマス発電 2.8 MW
再エネ合計 53.9 MW



2050年に目指す将来像

2050年カーボンニュートラルは手段であり、目的ではありません。脱炭素施策を通して生活の質の改善をはかり、また経済と産業の活性化によって豊かな暮らしが実現することを目指しています。



市民ワークショップの開催

2022年8月、10月に脱炭素ライフスタイルを考える市民ワークショップを開催し、市民(延べ)21名が参加しました。期間中、ご家庭で脱炭素ライフを体験してもらったほか、グループディスカッションでは自身の体験をもとに脱炭素ライフに資するさまざまなアイデアが出されました。



脱炭素社会を実現する 5+1の施策と2030年度目標

施策 1

温室効果ガスの 排出削減対策の推進



2030
目標

省エネ家電導入 累計500件
エコリフォーム 累計903件
etc.

施策 2

再生可能エネルギー等の 導入の推進



2030
目標

太陽光発電システム設置 1240件
公共施設での再エネ導入 1,700MWh

施策 3

脱炭素地域づくりの推進



2030
目標

公用車のEV導入 20台

施策 4

循環型社会の形成



2030
目標

ごみ焼却量 15,271t
(1人1日当たりごみ排出量 754g)
ごでん回収量 41t

施策 5

環境意識の醸成



2030
目標

脱炭素啓発に資する
講座等の開催 20件

2050年に向けた… あたらしい挑戦！

- 活力ある地域経済づくり
- 自然環境の保全と活用

- 畜産飼料の自給化
- 地鶏の高付加価値化
- 地場特産品の消費増
- ゼロカーボンツアー 等

推進体制と具体的な取り組み

地球温暖化の対策は、私たちの日常生活で直面するものから地球規模のものまで、また現在発生している問題から将来リスクになるかもしれない長期的な問題まで、広範囲にわたります。

取り組みを着実に進めるためには
行政はもちろん、**市民**、**事業者**の
皆さんの協力が不可欠です

- ● ● 3Rの取り組みを進めよう
- ● ● 食品ロスの削減を意識しよう
- ● プラごみをなくそう
- ● ● ごみの循環利用の仕組みを作ります

循環型社会の形成

- ● ● エネルギー使用量を見える化しよう
- ● 高効率の家電製品に切り替えよう
- ● 設備機器の省エネ化を進めよう
- ● ● 建物の省エネ化を進めよう

温室効果ガスの排出削減対策の推進

- ● 公共施設での再エネ導入を進めます
- ● 自家消費型太陽光発電を進めよう
- ● 木質バイオマス熱電併給設備の導入を進めよう
- ● 農業へのバイオマス熱利用を進めます

再生可能エネルギー等の導入の推進

- ● 森林資源の適切な管理を進めます
- ● 木材利用を促進します
- ● 鉄道へのモーダルシフトを促します
- ● 市民参加型森林づくりを進めます

脱炭素地域づくりの推進

- ● ● 市民ワークショップの提言を実践します
- ● ● 環境教育・学習の機会を増やします
- ● ● 省エネ行動の定着を促します

環境意識の醸成

- 体験の場(脱炭素ライフスタイル、農業体験)
- マッチング(空き資源の活用、Mobi拡大、モノの修理・シェア)
- 学びの場(エコドライブ教室、スマホ教室、CO2削減見える化)
- 対話の場(地産地消にむけた農家との交流、
将来の街・暮らしを学び話し合う場)

市民ワークショップからの提言